



# IR HAND BOOK

For the INDUSTRY

For the EARTH

For the HUMAN LIFE

第60期 事業のご報告

平成20年4月1日～平成21年3月31日

# 私たちのビジネス



事業区分		貴金属製品製造			
貴金属関連事業	貴金属事業		貴金属地金		貴金属化成品
	環境事業		感材銀 リサイクル		
食品関連事業					水産物

松田産業グループは、  
 「地球資源を有効活用し、業を通じて社会に貢献すること」  
 を企業理念に、  
 限りある資源・貴金属をリサイクルして有効活用を図る「貴金属事業」、  
 きれいな環境を次世代に引き継ぐ「環境事業」、  
 地球の豊かな恵み、食資源を安定的に供給する「食品事業」  
 の3事業を中心に展開しています。

経営の基本方針として「顧客重視」と「株主重視」を掲げております。  
 顧客ニーズを的確に把握し、顧客との共存共栄を目指すところに当社の発展の道が見えてくると考えております。資源リサイクル事業を通じた資源確保への寄与、貴金属加工製品の開発、販売を通じたエレクトロニクスをはじめとする先端産業発展への寄与、環境事業を通じた環境保全への寄与、食品事業を通じた食生活・食文化への貢献を目指し、不断の営業努力により、業容の拡大と適正利潤の獲得に努めていきます。

代表取締役社長  
 松田 芳明



処理・サービス

商品販売

For the  
INDUSTRY  
貴金属事業

PAGE 4

For the  
EARTH  
環境事業

PAGE 4

For the  
HUMAN LIFE  
食品関連事業

PAGE 4

2009年3月期の連結業績は、貴金属関連事業では半導体業界向け販売の減少や地金相場下落により減収減益、食品関連事業でも相場下落等の影響から増収減益となり、売上高は前期比6.3%減の182,496百万円、営業利益は前期比14.6%減の7,757百万円、経常利益は前期比21.8%減の6,933百万円、当期純利益は前期比27.2%減の3,847百万円となりました。

利益配分につきましては、安定配当の継続を基本に、内部留保とのバランスを考慮しつつ、株主様への利益還元を行ってまいります。この方針に基づき、2009年3月期の期末配当金は12円とし、年間配当金は、中間配当金12円と合わせて前期と同じく24円といたしました。昨年9月1日付で、1株につき1.1株の株式分割を実施しているため、前期に比べ10%の実質増配となります。

2010年3月期の年間配当金は、24円(中間配当金12円、期末配当金12円)を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも何卒一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

私たちのビジネス

社長インタビュー	2
事業別概況	4
連結財務諸表	6
特集 松田産業が取り扱うモノ	8
Information	9

当誌に記載された業績見通し等の将来に関する記述は、決算短信が発表された2009年5月18日現在に当社が入手していた情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

## 中長期の成長戦略を着実に進めています。

2009年3月期の振り返りと2010年3月期の見通しについてお話しください。

世界的な金融システムの動揺から国内経済も大幅な景気後退に直面し、当社の業績も、半導体業界向けの製品・商品販売の減少等によって減収となったほか、販売数量急減と貴金属相場下落により減益となりました。2010年3月期は金融危機の深刻化や景気の一層の下振れが懸念されるものの、在庫調整の進展によって生産は徐々に回復に向かうことが期待されます。そのため貴金属関連事業では各需要業界の動向に注意を払いつつ、一層の業務効率化を進め、取扱数量の増加と業容の拡大に努めます。食品関連事業では仕入先との関係強化、新規商材・新産地の開拓による業務用食品原料の販売拡大や、千葉物流センターの活用等による外食・中食業界への販売強化を図ります。2010年3月期の連結売上高はさらなる減少が見込まれますが、期後半には回復傾向が強まるものと前向きに考えております。

中長期の成長戦略への取り組みをお話ください。

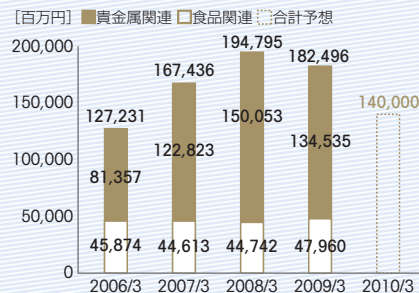
現在は短期的な調整局面にあるものの、当社が引き続き「東アジアNo.1のリファイナー」を目指していくことには変わりはありません。東南アジアでの中長期的なエレクトロニクス関連需要の増大見通しをふまえ、さらなる営業力強化に注力します。環境部門では、社会的な環境問題への取り組みに応えるべく、当社の廃酸・廃アルカリ処理設備や全国の許認可網に基づく処理ネットワークを活用し、エレクトロニクス業界や化学・薬品業界からの集荷拡大など、関連法規制に則った営業強化を図ります。この一環として本年7月には、入間地区の物流機能を狭山地区に移転します。この新拠点を関東圏の環境物流の統括拠点とし、一時保管、仕分け機能の充実を図り、小口廃棄物へのサービス強化を進めます。

環境物流強化のため  
狭山事業場を建設  
(本年7月竣工予定)

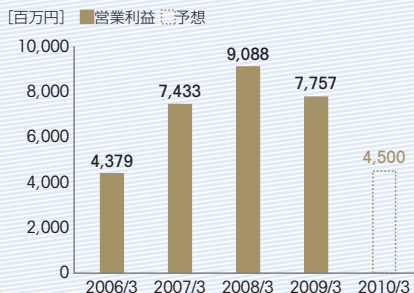


### 連結財務ハイライト

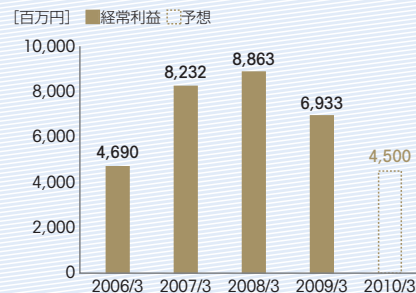
#### 売上高



#### 営業利益



#### 経常利益





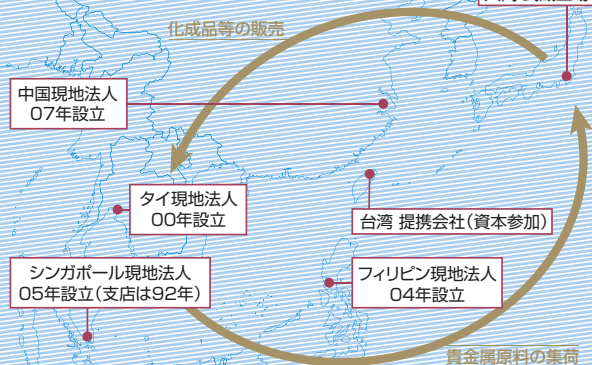
## 中長期の成長戦略

# 東アジアNo.1のリファイナーを目指します

松田産業は、日本、タイ、フィリピン、シンガポール、中国、台湾の拠点で、東アジアNo.1のリファイナーに向けて更なる成長を目指します。

1992年にシンガポール支店を設立以来、タイ(2000年)、フィリピン(2004年)と拠点展開を進めてきました。タイ現地法人では従来の前処理設備に加え、2007年6月には製錬設備を稼働させました。中国では2007年4月、蘇州に現地法人を設立し営業を開始しました。今後も成長が見込まれる東アジア地域で、貴金属リサイクル、電子部材・化成品等の販売、精密洗浄サービスの総合的展開を図ります。

## 東アジア地域のネットワーク



### タイ現地法人

- ▶2000年 貴金属含有スクラップの回収等の営業拠点として現地法人を設立
- ▶2003年 貴金属製錬の前処理工場を建設
- ▶2007年 貴金属製錬工程稼働



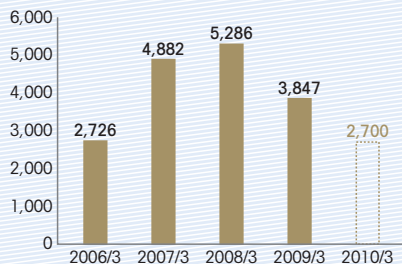
### シンガポール現地法人

- ▶1992年 はじめての海外営業拠点としてシンガポール支店を開設
- ▶2005年 現地法人化



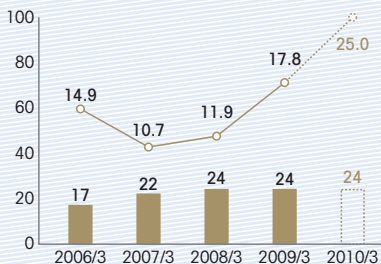
### 当期純利益

[百万円] ■当期純利益 □予想



### 1株当たり年間配当/配当性向

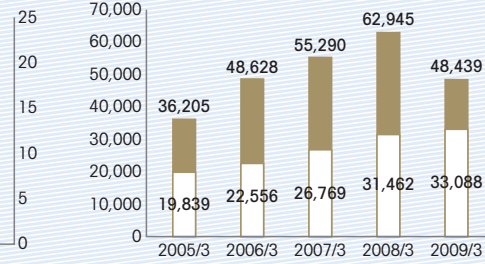
[円] ■1株当たり配当 ○配当性向 □予想



※配当性向は連結決算ベース。破線は通期(年間)予想

### 総資産/純資産

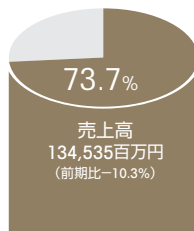
[百万円] ■総資産 □純資産



※2006/3以前の純資産に少数株主持分は含まれておりません



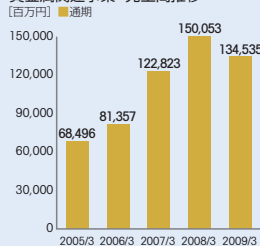
# 貴金属関連事業



## 貴金属部門

上半期はリサイクル原料の回収や貴金属化成品・電子部材の販売も比較的順調に推移しましたが、下半期に入り、主要対象業界である半導体・電子部品業界の大幅な生産調整によって、化成品や金ボンディングワイヤの販売量が大幅に減少するとともに、リサイクル原料回収も減少しました。これらの量的減少に加え貴金属相場下落に伴う販売単価の下落から、売上高は前期を下回りました。

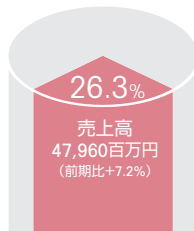
貴金属関連事業 売上高推移



貴金属関連事業 営業利益推移



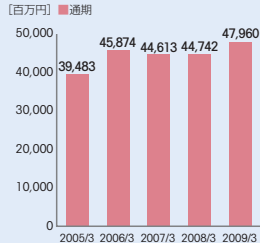
# 食品関連事業



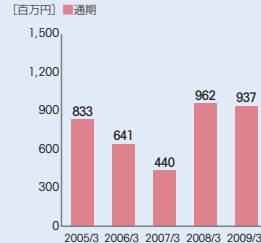
## 食品部門

食品関連事業においては、輸入食品の安全性・食品表示の問題などに加え、景気後退が消費の停滞を招き、厳しい状況が続いています。このような状況下で、すりみなどの水産品では、練り製品業界の生産量の減少に

食品関連事業 売上高推移



食品関連事業 営業利益推移



## 環境部門

下半期における製造業顧客の減産に伴う排出量の減少が大きく影響し、通期での取扱量は減少しました。PCB処理装置の開発・製造を行う子会社のゼロ・ジャパン(株)においては、日本環境安全事業(株)(JESCO)北九州第2期工事への処理装置の納入を行いました。

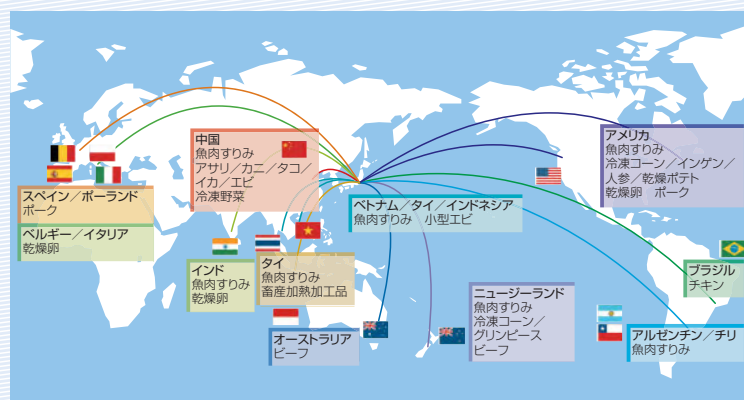
一方、貴金属相場下落により一部の在庫につき462百万円の簿価切下げ処理(評価損失の計上)を行い、また、当連結会計年度より商品、製品(一部工程在庫を除く)及び仕掛品の評価方法を、従来の後入先出法から先入先出法に変更したことにより、営業利益が80百万円減少しております。

これらの結果、貴金属関連事業の売上高は134,535百万円(前期比10.3%減)、営業利益は6,820百万円(同16.1%減)となりました。

## 先端技術ニーズに応える品質創造とリサイクルサービスの提供

事業分野	品目	主な取り組み
回収・製錬	金	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 金を中心とした増産体制を構築</li> <li>▶ 鉱源の多角化と回収率向上への技術開発を推進</li> </ul>
	銀	
	白金族	
環境処理	廃酸・廃アルカリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 全国をカバーする収集運搬許可網の活用</li> <li>▶ 自社処理設備と各地の処理ネットワークを構築</li> </ul>
	PCBなど	
表面処理	貴金属化成品	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 先端ニーズに応えるメッキ用化成品の開発・製造</li> <li>▶ 薄膜形成装置の治具の高品質洗浄、再生加工</li> </ul>
	精密洗浄	
加工	金ボンディングワイヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日鉄マイクロメタルによる高品質商品の開発・製造</li> <li>▶ 当社の営業ネットワークによる各種商品販売</li> </ul>
	マイクロボール	
	薄膜形成材料など	

## 世界各国に広がる当社の仕入ソース



より前期に比べ販売数量は減少しましたが、高級品を中心とした販売価格の上昇により売上高は増加しました。鶏肉などの畜産品、野菜類などの農産品は主に価格上昇の影響により売上高が増加しました。また、外食産業向けに個別店舗配送を行う物流センターもこれらの販売増に寄与しました。しかしながら、夏場以後は輸入鶏肉やすりみの相場下落が損益悪化の要因となりました。これらの結果、食品関連事業の売上高は47,960百万円(前期比7.2%増)、営業利益は937百万円(同2.6%減)となりました。

# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表

(単位:百万円)

資産の部	前期	当期	負債の部	前期	当期
	平成20年3月31日	平成21年3月31日		平成20年3月31日	平成21年3月31日
<b>流動資産</b>	<b>49,537</b>	<b>35,169</b>	<b>流動負債</b>	<b>29,392</b>	<b>13,239</b>
現金及び預金	2,727	7,891	支払手形及び買掛金	12,880	7,506
受取手形及び売掛金	20,868	13,979	短期借入金	6,030	630
たな卸資産	17,888	—	1年内返済予定の長期借入金	640	340
商品及び製品	—	5,473	リース債務	—	48
仕掛品	—	130	未払法人税等	2,001	1,428
原材料及び貯蔵品	—	4,873	賞与引当金	590	607
繰延税金資産	605	940	未払金	4,289	681
未収入金	4,276	546	その他	2,960	1,996
その他	3,196	1,355	<b>固定負債</b>	<b>2,090</b>	<b>2,111</b>
貸倒引当金	△ 25	△ 20	長期借入金	1,307	1,267
<b>固定資産</b>	<b>13,408</b>	<b>13,270</b>	リース債務	—	159
<b>有形固定資産</b>	<b>8,699</b>	<b>9,053</b>	退職給付引当金	410	349
建物及び構築物(純額)	2,287	2,000	役員退職慰労引当金	370	332
機械装置及び運搬具(純額)	1,478	1,227	その他	3	3
土地	4,752	5,148	<b>負債合計</b>	<b>31,483</b>	<b>15,351</b>
リース資産(純額)	—	208	<b>純資産の部</b>		
建設仮勘定	0	328	<b>株主資本</b>	<b>30,941</b>	<b>33,470</b>
その他(純額)	180	140	資本金	3,559	3,559
<b>無形固定資産</b>	<b>1,219</b>	<b>1,423</b>	資本剰余金	4,009	4,008
のれん	38	12	利益剰余金	23,494	26,683
その他	1,181	1,410	自己株式	△ 121	△ 780
<b>投資その他の資産</b>	<b>3,489</b>	<b>2,792</b>	<b>評価・換算差額等</b>	<b>520</b>	<b>△ 382</b>
投資有価証券	2,256	1,562	その他有価証券評価差額金	203	104
会員権	92	—	繰延ヘッジ損益	54	△ 174
差入保証金	497	—	為替換算調整勘定	263	△ 312
繰延税金資産	207	220	<b>純資産合計</b>	<b>31,462</b>	<b>33,088</b>
その他	696	1,230	<b>負債純資産合計</b>	<b>62,945</b>	<b>48,439</b>
貸倒引当金	△ 259	△ 220			
<b>資産合計</b>	<b>62,945</b>	<b>48,439</b>			

POINT

### 資産の部

売上債権やたな卸資産の減少による流動資産の減少14,367百万円と、土地取得やERPシステム開発等による有形・無形固定資産の増加558百万円等から、総資産は14,506百万円減少しました。

POINT

### 純資産の部

<b>株主資本</b>	<b>30,941</b>	<b>33,470</b>
資本金	3,559	3,559
資本剰余金	4,009	4,008
利益剰余金	23,494	26,683
自己株式	△ 121	△ 780
<b>評価・換算差額等</b>	<b>520</b>	<b>△ 382</b>
その他有価証券評価差額金	203	104
繰延ヘッジ損益	54	△ 174
為替換算調整勘定	263	△ 312
<b>純資産合計</b>	<b>31,462</b>	<b>33,088</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>62,945</b>	<b>48,439</b>

POINT

### 負債の部

短期及び長期借入金の減少5,740百万円、買掛金の減少5,373百万円、未払金の減少3,607百万円等から、負債は16,132百万円減少しました。

### 純資産の部

利益剰余金の増加3,188百万円、自己株式取得による減少658百万円、円高進行等による評価・換算差額等の減少902百万円等から、純資産は1,626百万円増加しました。



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成19年4月1日～ 平成20年3月31日	平成20年4月1日～ 平成21年3月31日
売上高	194,795	182,496
売上原価	174,752	163,268
販売費及び一般管理費	10,954	11,470
営業利益	9,088	7,757
営業外収益	254	197
営業外費用	480	1,021
経常利益	8,863	6,933
特別利益	41	1
特別損失	41	141
税金等調整前当期純利益	8,863	6,793
法人税、住民税及び事業税	3,498	3,068
法人税等調整額	78	△ 122
当期純利益	5,286	3,847

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成19年4月1日～ 平成20年3月31日	平成20年4月1日～ 平成21年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 262	14,392
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,463	△ 1,729
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,834	△ 7,086
現金及び現金同等物に係る換算差額	87	△ 412
現金及び現金同等物の増減額	196	5,164
現金及び現金同等物の期首残高	2,527	2,724
現金及び現金同等物の期末残高	2,724	7,888

POINT

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等支払後の当期純利益に加え、仕入債務の減少を上回る売上債権及びたな卸資産の減少等から、14,392百万円となりました。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

土地の取得や工場設備の更新、ERPシステムの開発支出等から、△1,729百万円となりました。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期及び長期借入金の返済、配当金支払ならびに自己株式の取得等から、△7,086百万円となりました。



2010年3月期第1四半期決算は、  
2009.8.11 16時に当社IRサイトで発表します。

<http://www.matsuda-sangyo.co.jp/investment/index.html>

## 連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

当連結会計年度(自平成20年4月1日 至 平成21年3月31日)

	株主資本					評価・換算差額等				純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	為替 換算 調整勘定	評価・ 換算差額等 合計	
平成20年3月31日残高	3,559	4,009	23,494	△ 121	30,941	203	54	263	520	31,462
当期変動額										
剰余金の配当			△ 659		△ 659					△ 659
当期純利益			3,847		3,847					3,847
自己株式の取得				△ 664	△ 664					△ 664
持分法の適用範囲の変動		△ 0		5	4					4
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 98	△ 228	△ 575	△ 902	△ 902
当期変動額合計	—	△ 0	3,188	△ 658	2,529	△ 98	△ 228	△ 575	△ 902	1,626
平成21年3月31日残高	3,559	4,008	26,683	△ 780	33,470	104	△ 174	△ 312	△ 382	33,088

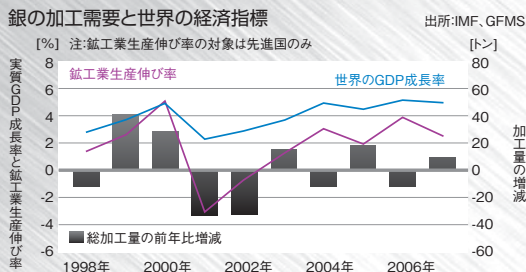
# 銀

[ Ag ]

高級貴金属として、金と並び称されることの多い銀。金に比べると少し地味なイメージでとらえられがちですが、その独自の特徴から、産業界を中心に重要な役割を果たしています。

## 熱伝導率と電気伝導率でNo.1

貴金属の中で最も高い熱伝導率と、最も低い融点、最も低い電気抵抗を兼ね備えている銀は、工業のさまざまな分野で用いられています。そのため世界で1年間に加工される銀の総量の増減は、GDP成長率や鉱工業生産伸び率等の経済指標と密接に連動しています。



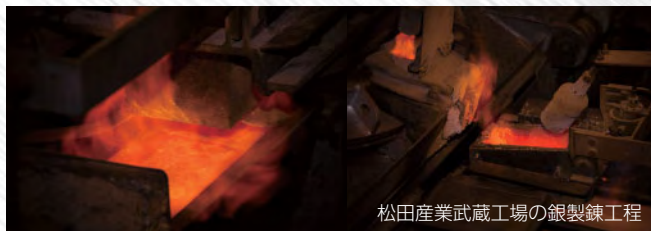
## 投資商品としての銀

銀の最も主要な用途は産業用であり、世界の銀需要の約50%を占めています。一方装飾品に用いられるのは全体の約20%であり、装飾用途が約75%を占める金とはこの点で大きく異なります。そのため投資商品としての銀の属性も本来的には金と異なり、独自の話題を提供してきました。例えば1979年～80年のハント兄弟の買占めによる価格高騰、1990年代後半に著名投資家ウォーレン・バフェットが世界の年間供給の約2割を買占めたことによる暴騰などがあげられます。しかし最近では銀と金が同時に取引されるケースが多く、両者が類似した値動きを示す傾向があるようです。



## 松田産業の銀関連ビジネス

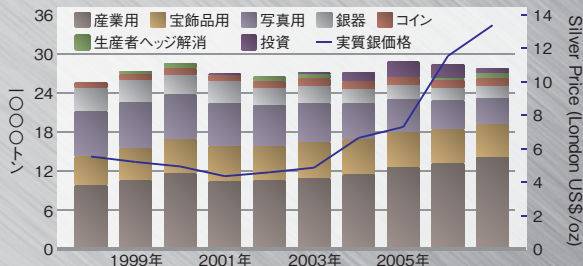
現在でこそ金やプラチナが中心となっている松田産業の貴金属回収・製錬ビジネスですが、もともとの事業基盤は、1935年の創業以来取り組んできた、銀塩フィルムや写真感光材料からの銀のリサイクルによって培われました。デジタルカメラの一般家庭への普及によって写真感光関係の需要は減少したものの、精密機械や家電などのエレクトロニクス需要を中心に、堅調な銀関連ビジネスを展開しています。



## Data of Silver

### 世界の銀の需要

出所:GFMS/The Silver Institute



松田産業の銀地金は、東京工業品取引所、ロンドン金銀市場協会、ドバイ金・商品取引所にブランド登録され、高品質が保証された地金として各国で流通しています。

# Information

## グループ会社概要

平成21年3月31日現在

	会社名	事業内容
貴金属関連	マツダ環境(株)	貨物自動車運送
	北海道アオキ化学(株)	産業廃棄物の収集・運搬および処理、金属原料の回収・販売
	日本メディカルテクノロジー(株)	金属原料の回収・販売
	ゼロ・ジャパン(株)	真空加熱分離装置(VTR)の開発・販売
	Matsuda Sangyo (Thailand) Co., Ltd.	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	Matsuda Sangyo (Philippines) Corporation	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	Matsuda Sangyo (Singapore) Pte. Ltd.	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	松田資源利用(蘇州)有限公司	金属原料の回収・販売、貴金属製商品の販売
	(株)日鉄マイクロメタル	電子工業用金属製品の製造・販売
食品関連	マツダ流通(株)	貨物自動車運送および食品加工原材料の販売

## 事業所

平成21年3月31日現在

### ● 貴金属事業部

本部／仙台／水戸  
東京／入間分室  
川崎／甲府  
長野／名古屋  
大阪／金沢  
福山／福岡  
鹿児島

### ● 食品事業部

本部／仙台  
塩釜／いわき  
東京／小田原  
名古屋／大阪  
福岡  
品質保証室  
外食営業課

### ● 環境事業部

本部／青森  
仙台／埼玉  
東京／千葉  
神奈川／静岡  
名古屋／大阪  
福山／福岡

### ◎ 生産本部

武蔵工場  
武蔵第二工場  
入間工場  
入間第二工場  
開発センター

### ■ 海外拠点

シンガポール(現地法人)  
タイ(現地法人)  
フィリピン(現地法人)  
中国(現地法人)  
青島(駐在員事務所)

## 会社概要

平成21年3月31日現在

商号 松田産業株式会社  
本社所在地 東京都新宿区西新宿1-26-2  
設立年月日 昭和26年6月18日  
資本金 3,559百万円  
従業員数(連結) 872名  
主な事業内容 貴金属回収製錬、貴金属地金・電子材料他の販売、  
食品加工原材料の卸売、産業廃棄物の収集・運搬・処理  
会計監査人 新日本有限責任監査法人

## 役員一覧

平成21年6月26日現在

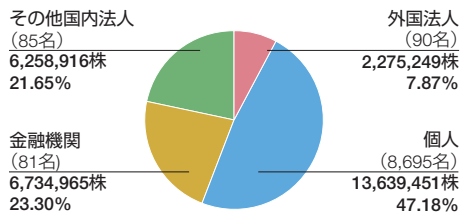
代表取締役社長	松田 芳明	取締役	清水 克之
専務取締役	對馬 浩二	取締役	山崎 隆一
専務取締役	徳永 庸夫	取締役	伊藤 康之
常務取締役	細田 颯治	監査役(常勤)	鈴木 幸一
取締役	田代 芳孝	監査役	谷 哲夫
取締役	片山 雄司	監査役	石原 猛男
取締役	船本 正則	監査役	熊坂 博幸
取締役	佐々木 隆茂		



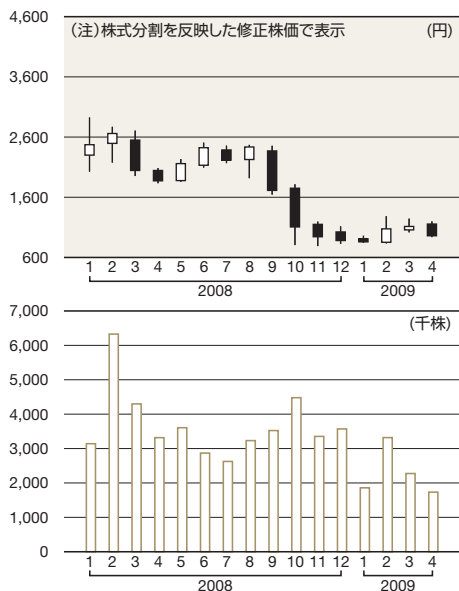
## 株式の状況 平成21年3月31日現在

株式の総数	40,000,000株
発行済株式総数	28,908,581株
株主数	8,951名

## 株式の分布状況 平成21年3月31日現在



## 株価・出来高推移 平成21年3月31日現在



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://www.matsuda-sangyo.co.jp/invenstment/">http://www.matsuda-sangyo.co.jp/invenstment/</a> (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### (ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### 【株式に関するお手続きについて】

	お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先
特別口座に記録された株式	▶ 特別口座から一般口座への振替請求 ▶ 単元未満株式の買取(買増)請求 ▶ 住所・氏名等のご変更 ▶ 特別口座の残高照会 ▶ 配当金の受領方法の指定(*)	特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 【手続き書類のご請求方法】 ▶ 音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ▶ インターネットによるダウンロード <a href="http://www.tr.mufj.jp/daikou/">http://www.tr.mufj.jp/daikou/</a>
	▶ 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ▶ 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ▶ 株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
証券会社等の口座に記録された株式	▶ 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ▶ 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ▶ 株式事務に関する一般的なお問合せ  ▶ 上記以外のお手続き、ご照会等口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

(\*) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

## 株主優待



- 対象株主**  
毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された、1単元(100株)以上保有の株主様を対象といたします。
- 優待の内容**  
一律2,000円相当の当社オリジナル「QUOカード」を贈呈いたします。
- 贈呈の時期**  
毎年1回、当社定時株主総会終了後の6月下旬発送を予定しております。

**松田産業株式会社**

証券コード:7456

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル  
TEL 03-5381-0001 (代表)

